

～ボルトンポール・デファイアント(Defiant)Mk.I



[ドイツ軍パイロットは遠目にデファイアントを見分けられたのか?と思って並べてみました…見分けられますねw。→]

本機、デファイアントは、同時期のスピットファイア Mk.Iやハリケーン Mk.Iとともに、バトルオブブリテンの戦闘に参加した、英国空軍の第3の単発戦闘機でした。この三機はいずれもマーリンエンジンを搭載していますが、その機首形状は三者三様で、デザインという仕事の奥深さを感じます。さて、本機の特徴点はなんといっても操縦席後ろに配置された動力銃座で(個人的には「宇宙戦艦ヤマト」のコスモタイガー複座型を思い出します)、ここに4丁の7.7mm機銃を束ねていました。当時、戦闘機の役割は爆撃機の迎撃と考えられており、対戦闘機任務は二の次と考えていたので仕方ないことですが、本機は、前方に向けた機銃を装備していませんでした。しかし、バトルオブブリテンにドイツ空軍の Bf-109E が爆撃機の護衛として随伴すると、対戦闘機としての能力を有さないデファイアントはひとたまりもなく、開戦初期に多くが失われて、デファイアントを装備した部隊はスコットランドなど後方に退くことになりました。動力銃座の駆動は油圧で、銃座からの脱出は機銃を前に向けた状態で開くハッチに拠っていたようです。ですから、油圧が無くなれば、銃手は脱出不可能となったわけで、乗員の生存率を考えたら、やはり欠点のあった機体だったようにも思います。

【模型について】

英国のエアフィックス(AIRFIX)製 1/72 のインジェクションキットです。窓枠はダークグリーンで塗装したクリアデカルを細切りにして張り付けています。窓枠が多いとそれだけで作る気力が萎えてしまうので、なにかしら工夫が必要になります。(中川裕幸 2021年10月)